

四谷の

千枚田だより



第170号



サミット

九月二十八日・二十九日、第二十三回全国棚田(千枚田)サミットが長崎県波佐見町で開催され、保存会から松下 誠、小山舜二が参加した。

開催テーマは「棚田は二十一世紀の社交場」棚田で出会う、触れ合う、分かち合う。

開催趣旨(概略)昔の人は、米をつくるため、急峻な土地を拓き、棚田を築いた。今の人は、国土の保全・生物多様性など棚田の多面的機能に気づき、そして農村と都市の交流が活発になり、今や「棚田」と聞くと美しい日本の原風景を連想させるようになった。これまで先人から引き継いで棚田の実りを支えてきた人たちが、景観や保全を意識するようになり、我が棚田を誇りに思うようになってきた。私たちは「棚田で迎える人」と「棚田へ出かける人」の気持ちを通い合う社交場として二十一世紀に継承する棚田のこれからについて考える。

基調講演 講師 三善浩二氏

氏は冒頭に、足も短く、ずんぐりむつくりなのか、話が下手なのか今

まで二回しか講演の依頼がなかった、と言いつつ赤ペラで歌謡曲を歌いだした。オイオイ九州くんだりまで来て、これはないぞ。(昨年を思い出して)と思っていたら、とんでもない大ウソつきで、時には行政を皮肉ったり、祀り上げたり、漫談調でむらぶくりのモットーは「農村は美しく、みんなで仲良く楽しく」等々捲し立てた、我々百姓や棚田に携わる参加者の真実が語られ、聴衆は笑いと真顔で聴き惚れ、かつてない有意義な講演であった。もし、四回目の講演を自前の旅費、弁当持ちで四谷の千枚田へ来てもらえたら・・・と、ふと思うほどであった。分科会は開催趣旨の棚田の社交場「おもてなし」「棚田女子会」など女性目線の議論が多くなされた。**棚田のまもりびとミーティング** 年々棚田を取り巻く環境は厳しさを増す中、全国の棚田保全活動の関係者が参加し、保全活動の現状や

課題解決に向けて意見交換が行われた。今回は西ブロックの集まりであったが、毎回ながら意義あるこの会にチャッカリ参加、現状報告の機会まで頂いた。

同室で「保存会における女性パワー」をテーマに参加者それぞれの事例を基に課題や取り組みの共有を議論されていたが、当初は初対面の猫かぶりか、静かであったが時間が流れるに従って歓声やどよめきで我々の声が聞こえない状況に陥りコーディネートの中島先生が再三注意するものの、その豹変ぶりはさすがに女性パワーと男性陣は尻尾を巻く始末であった。

この会を傍聴して、棚田と言いながらも規模は大きく、大型農機が可能で、千俵収穫、一俵三万円などとスケールの違いやオーナー制度(三か所)のノウハウなど、参考になる事例が沢山学べた。

現地見学会 鬼木棚田と陶芸の館

鬼木郷は過疎化で人の姿もまばら。賑わいを魅せようと世相を表す案山子を中心に「鬼木棚田まつり」を毎年九月二十三日に行っている。今年も田んぼ沿いにプロ棋士の藤井四段が何体か見られ、集落の人口より多い百七十六体が並び、一日で

七千人が訪れたそうで、大きな地域活性化に繋がったようで、十月十日まで展示される。



共同宣言

- 一 美しい棚田は日本の誇り
- 二 楽しい棚田は連携の場
- 三 美味しい棚田は女性の力

第二十四回棚田(千枚田)サミット

平成三十年九月八日・九日、長野

県北安曇郡小谷村おたりで開催される。

敬老会

九月十七日、公民館主催の敬老会が行われた。

アトラクションにNHKの地域情報番組「さらさらサラダ」MCを務めたこともある田口の女芸人「さやか結」の軽快なテンポの毒舌・漫談で会場を湧かした。



記念写真は、毎年撮って一人ひとりに贈っている。その代わり、年寄り(そうだ、自分も爺なんだ)の豊富な知恵を貰い、お互いに持ちつ持たれつで通している。

収穫の秋

九月十四日、豊橋調理製菓専門学校(三十二名)が稲刈りを行った。



九月十九日、鳳来寺小学校(五年生九名)が稲刈りを行った。



こども農学校

九月二十三日、JA愛知東こども農学校は親子(八十名)そろって高橋庄一(顧問)の指導で稲刈りを行った。

午後は旧連谷小学校体育館で昼食の後、小山舜二農協さわめびとが**変遷 四谷の千枚田から地域起こし**についてを題材に講演を行った。この日は、奇しくも千枚田保存活動始動二十七年、その日でもあり、嬉しい誕生日になった。

視察

十月二日、奈良県北葛城郡王寺町から町長・議長・農業委員の皆さん十九名が千枚田を訪れた。



新城市鳳来総合支所地域課松井課長の歓迎の挨拶、また、王寺町平井町長さんから王寺町は聖徳太子と達磨大師の出合の場として知られ、現在は大阪のベットタウンとして活性がみられるが、中山間地域における農業の課題は山積している。そこで、有名なこの地「四谷の千枚田」から「まちづくり」を学ぶために訪れた。と挨拶があった。

歴史ある町からの訪問者も千枚田の壮観に、耕す耕作者の大変さ、守る信念には敬服の外ない。と口ぐちにお言葉をいただいた。

今後の予定

- ・十月十二日、豊橋調理製菓専門学校の脱穀市地域課、(舞)
- ・十月十三日、エコネットあんじょう 環境大学 安城環境学習センター 講師(舞)
- ・十月十七日、愛知県ふるさと・水と土指導員連絡会議 豊田市どんぐり工房 原田英史
- ・十月三十日、三遠南信サミット 遠州 アクトシティ浜松(舞)
- ・十一月一日、あいちDC受け入れ(舞)対応

行 平成二十九年十月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二